

新年のご挨拶

阿尾公民館長 浜本 純雄



明けましておめでとうございます。

昨年中は阿尾公民館の活動に多くの方々が参加下さり、温かいご支援ご協力を賜り、本当にありがとうございました。

年度初めには、老人会(福寿会)の解散を聞き、大変残念に思っておりましたが、恒例の公民館祭りも例年に増して沢山のすばらしい作品が展示されましたし、学童保育の子供たちのお茶会も大変好評でした。

二日目の午前中には初めての企画として三世代が交流する「カロリーング大会」を開催しました。初めての競技ということで戸惑いも見られましたが皆さんが楽しみながら交流を深めていました。

さらに、日々の講座や各教室、歩こう会など、社協、食改、健康ボランティアとの共催事業も無事行うことができました。

さて、12年前の「午年」では、非凡の努力がきつと報われることを示した「驚馬(どば)も千里」という言葉が好きだと言いましたが、今年は達識の士が常に忘れてはならないこととして「人間万事塞翁が馬」という言葉を紹介します。

今年も良いお年でありますように。



健康教室・男性料理教室

12月7日(日)、26名が参加して、男性料理教室が行われました。初めに、フレイル予防について氷見市健康課の藤岡さんの話がありました。その後、理科室で料理を作りました。



阿尾保育園生活発表会

11月21日(金)・22日(土)に生活発表会がありました。子供たちは、はりきって演技をしていました。



* 公民館主事の独り言



《11/30北日本新聞より》

11月29日(土)、カタール富山と秋田の試合があった。カタールにとっては、J2最後の試合になるのではない、孫と一緒に県総合運動公園へ行った。

カタールは20チーム中18位で下位3チームが降格になる。17位の熊本とは勝ち点で3、得失点差2の開きがあった。カタールがJ2に残留するには、熊本が引き分けか敗れるかして、カタールが秋田に3点差以上で勝たなければならない。多くの人は、大変難しいと思っていたのではないだろうか。

試合は、秋田が押し気味で試合を進め、0-0で前半が終了した。後半に入るとカタールが押し気味になり、秋田がペナルティーエリアで反則を犯し、1点先攻した。続けて2点目も入ったが、秋田に1点を返され2-1となった。

この段階で3点差を付けた勝利は難しいと思ったが、カタールの頑張りは奇跡的で4-1で勝利した。

カタールのこの奇跡を起こしたのは、サポーターの応援だと感じた。観客9191人の内、カタールの応援は9000人を越えているのではないと思うくらいスタジアムは一体感で溢れていた。この試合からは、「応援の力」と「あきらめのわるいことの大切さ」を感じた。来年度は、J2安泰の順位であって、J1を狙ってほしい。

○ 1月の講座案内

※これはあくまでも予定であり、変更もあります。詳細については、責任者等にご確認ください。

講座名	曜日	開設日	講師・責任者	時間	部屋
生け花	第1・3水曜日	1・2月は休講	西山栄津子	10:00～	洋室
かな書道	第1・3月曜日	5日 19日	猶明 光華	13:00～	洋室
学童茶道&百人一首	毎週木曜日	8日 15日 22日 29日	学童支援員	15:00～	和室
手芸	第3火曜日	20日	伏木あい子	13:30～	和室
潮華会(新舞踊)	毎週土曜日	3日 10日 17日 24日 31日	大野 朝子	19:00～	和室
潮月会(新舞踊)	毎週金曜日	2日 9日 16日 23日 30日	大野 朝子	13:00～	和室
囲碁サロン	毎週月・水曜日	5日 7日 12日 14日 19日 21日 26日 28日		13:30～	和室
常磐会書道教室	第2・4土曜日	10日 24日	名苗 くみ子	10:00～	洋室
学童保育	基本:日曜日・祝祭日・第2・4土曜日を除く毎日		学童支援員	14:00～	洋室

○おらっちゃ風土記

※引用図書「氷見の民話」氷見市教育委員会 昭和55年発行

今、NHKの朝ドラ「ばけばけ」で、ラスカデオ・ハーンが日本の怪談を集めて、世界に広めた話がテーマになっています。氷見にも怪談ではないが語り継がれている昔話があります。そのいくつか(要約)を紹介したいと思います。

ー 蛇とギャワズの話 ー

むかしむかし、心のやさしい旦那はんが3人の美しい娘さんと暮らしておった。ある日、裏庭を散歩したら、蛇がギャワズ(カエル)をくわえたと。ギャワズが悲しい声でキュウキュウと鳴いたと。それを見た旦那はんは、

「蛇やい。お前がそのギャワズ放してやってくれたら、おらの娘の一人をお前の嫁にやる。頼むから聞いてくれ。」蛇は頼みが分かったのか、草むらに消えていった。

その夜から旦那はんが病気になる。いくら頼んでも薬を飲もうとしない。

「蛇との約束をお前が聞いてくれれば薬を飲む。」

と言った。1番目・2番目の娘さんは断った。3番目の娘さんは、その話を聞くと、

「姉たちがいやというならば、私が嫁に行く。そのかわり、針を千本買ってください。」と言った。

次の夜、美しい男が嫁を迎えにきた。3番目の嫁はんが針をふところに入れ、男の後ろをつんだって行った。

大きな池に着くと男は大蛇に変わった。娘さんは持ってきた針を投げつけ一生懸命に逃げた。

大蛇から逃げたい一心でどこをどう逃げたか分からんくらいだった。

そしたら、ずーっとずーっと遠い所にぽつんと明かりが見えた。娘さんがその家に行くと、



「泊めて下さい。」と頼むと、真っ白い髪の毛をしたおばあさんが出てきて、「さあさあ、入ってやすまっしゃい。」

と言って泊めてくれたと。

娘さんは、安心して家の中へ入るとぐっすり眠ってしまった。

次の日の朝、明るくなって目を覚ました娘さんが辺りを見ると、昨日の家はなく、草原の中に寝ていた。髪の毛の白いおばあさんもいなく、その代わりに、横に小さいギャワズが娘さんを見とったと。

そのギャワズは娘さんが目を覚ましたのを確かめると、どこにもなくピョンピョンと跳んでいったと。

蛇に飲み込まれそうになったギャワズが恩返ししてくれたがやろう。